

200835064A

厚生労働科学研究費補助金

地域医療基盤開発推進研究事業

歯科補綴物の多国間流通に関する調査研究

(H20-医療-一般-018)

平成20年度 総括研究報告書

研究代表者 宮崎 秀夫

平成21(2009)年 4月

厚生労働科学研究費補助金

地域医療基盤開発推進研究事業

歯科補綴物の多国間流通に関する調査研究

(H20-医療-一般-018)

平成20年度 総括研究報告書

研究代表者 宮崎 秀夫

平成21(2009)年 4月

## 目 次

### I. 総括研究報告

歯科補綴物の多国間流通に関する調査研究	-----	1
---------------------	-------	---

宮崎秀夫

(資料) 歯科補綴物の多国間流通に関するアンケート調査用紙	-----	5
-------------------------------	-------	---

### II. 分担研究報告

1. 日本歯科医師会会員対象のアンケート調査研究	-----	10
--------------------------	-------	----

佐藤博信

末瀬一彦

(資料) 歯科補綴物の多国間流通に関するアンケート集計表	-----	34
------------------------------	-------	----

2. 歯科補綴物の多国間の流通経路に関する海外調査研究	-----	73
-----------------------------	-------	----

阿部 智

III. 研究成果の刊行に関する一覧表	-----	89
---------------------	-------	----

IV. 研究成果の刊行物・別刷	-----	89
-----------------	-------	----

# 1. 厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

（総括）研究報告書

## 歯科補綴物の多国間流通に関する調査研究

主任研究者 宮崎秀夫 新潟大学大学院医歯学総合研究科教授

### 研究要旨

日本で開設されている歯科診療所で取り扱う海外で製作された補綴物の流通について、受注側と供給側の視点からその実態を明らかにすることを目的に研究を行った。日本歯科医師会会員 61,460 名（平成 20 年 9 月 30 日現在）の 5%（3,073 名）を無作為抽出し、アンケート形式による往復郵送調査法を行った。質問事項は基本的属性、補綴物の製作状況に関するものであり、海外に補綴物を発注したことがある人についてはさらに、海外への発注開始時期、発注国、方法、発注補綴物の種類および量、発注理由・きっかけなどについてである。流通経路に関する海外調査については、主として中国の輸出型大規模技工所の実態調査および歯科技工関係者へのインタビューに基づいている。その結果、アンケート回収率は 65.8% と比較的高く、各県別のばらつきが比較的少ないことから、全国的な傾向をみるのに適正かつ有効なデータが得られた。日本の実態として、常勤の技工士 1 名以下がほとんどであり、多くの診療所が歯科技工物製作の多くを外注しており、最近の歯科技工の外注傾向が高い時勢を的確に反映していた。全回答者（2,021 名）のうち 7.4% が「海外に歯科補綴物を発注した経験あり」と回答した。海外への発注は平成 18 年以前からが 69.3%、平成 19 年からが 24.0%、平成 20 年からが 6.7% となっていた。具体的な歯科補綴物の海外への発注状況を見ると「ノンクラスプ義歯」が 78.0%、「オールセラミッククラウン・ブリッジ（ラミネート、インレー、コーピングのみも含む）」8.7%、「金属床義歯（フレームのみも含む）」と「陶材焼付クラウン・ブリッジ」がそれぞれ 6.0% となっていた。海外に補綴物を発注している理由については、「国内で作成する技術・材料がない」46.0%、「取引先の歯科技工所に勧められる」24.7%、「値段が安い」23.3%、「精度がよい」10.0% となっていた。歯科補綴物の供給国である中国の輸出型大規模歯科技工所は台湾・香港・大陸資本が中心で華南地区に集中していた。ISO などの国際基準を取得することで工程・品質管理を行い、材料は主に日本・欧米系のものを使用し、FDA 認証や CE マークなどの認証を得ていた。結論として、全国歯科医師のアンケート調査により、海外に補綴物製作を発注する割合は 7.4% と低く、その発注先は中国で、ノンクラスプ義歯が多かった。中国の輸出型大規模歯科技工所では ISO を取得して工程管理を行い、歯科補綴物の材料には欧米の各認証を得たものを使用していた。

### 研究分担者

佐藤博信 福岡歯科大学教授

末瀬一彦 大阪歯科大学歯科技工士専門学校教授

阿部 智 神奈川歯科大学助教

## A. 研究目的

海外で製作された補綴物等の流通に関する実態の把握は、患者へ提供する歯科医療の質を担保するためにも、日本の歯科保健行政上、非常に重要な情報である。本研究の目的は (1) 日本歯科医師会に加盟する全歯科医師を対象とし、治療現場で使用される輸入歯科技工物の実態を明らかにすること、(2) 輸入歯科技工物に対する国内の歯科技工所や歯科技工士の関わりの実態を明らかにすることである。平成 20 年度は無作為抽出された日本歯科医師会会員を対象とし、海外で作成された歯科技工物の輸入に関する質問紙調査と欧米アジア諸外国のインタビュー調査を実施した。

## B. 研究方法

### 1. 調査対象者の抽出数

平成 20 年 9 月 30 日現在の全国の日本歯科医師会全会員 61,460 名の中から、5% (3,073 名) を無作為に抽出した。

### 2. 調査対象地域

全国

### 3. 調査研究方法

アンケート形式による往復郵送調査法とした。なお、督促状の代替として、アンケートの再送を 1 度行い、回収率の向上を図った。

### 4 調査内容 (項目)

(全員への質問)

#### ① 属性

- ・ 開業地
- ・ 標榜
- ・ 開業年数
- ・ 院長の年齢
- ・ 院長以外の従業員職種別数の内訳

- ・ 1 日平均患者数

#### ② 補綴物の製作に関する傾向

- ・ 自家と外注の割合
- ・ 外注のうち国内と海外の割合
- ・ 近年の海外補綴物についての動向
- ・ 今後補綴物を海外に発注する予定

(海外に補綴物を発注したことがある人については以下の項目を追加した)

- ・ 国内・海外技工所別の取引年数
- ・ 海外への補綴物の発注先の国別割合
- ・ 海外への補綴物別の発注方法・頻度・発注物
- ・ 海外への補綴物の発注理由・きっかけ
- ・ 海外への補綴物の発注の際の指示・トラブル
- ・ 海外へ発注した補綴物についての患者への説明事項 (発注国名・発注方法・安全性、成分等)
- ・ 海外へ発注した補綴物についての満足度 (発注者・患者評価)
- ・ 今後も補綴物を海外に発注する事への意向の有無

### 5. 有効回収数 (率)

発送数は 3,073 通、回収数が 2021 通 (65.8%)

### 6. 調査実施期間

平成 20 年 10 月 29 日～同年 12 月 31 日

### 7. 海外インタビュー調査

流通経路に関する海外調査については、主として中国の輸出型大規模技工所の実態調査および歯科技工関係者へのインタビューに基づいている。

### C. 研究結果

アンケート回収率は 65.8%と比較的高く、各県別のばらつきが比較的少ないことから、全国的な傾向をみるのに適正かつ有効なデータが得られた。日本の実態として、常勤の技工士 1 名以下がほとんどであり、多くの診療所が歯科技工物製作の多くを外注しており、最近の歯科技工の外注傾向が高い時勢を的確に反映していた。全回答者(2,021 名)のうち 7.4%が「海外に歯科補綴物を発注した経験あり」と回答した。海外への発注は平成 18 年以前からが 69.3%、平成 19 年からが 24.0%、平成 20 年からが 6.7%となっていた。具体的な歯科補綴物の海外への発注状況を見ると「ノンクラスプ義歯」が 78.0%、「オールセラミッククラウン・ブリッジ(ラミネート、インレー、コーピングのみも含む)」8.7%、「金属床義歯(フレームのみも含む)」と「陶材焼付クラウン・ブリッジ」がそれぞれ 6.0%となっていた。海外に補綴物を発注している理由については、「国内で作成する技術・材料がない」46.0%、「取引先の歯科技工所に勧められる」24.7%、「値段が安い」23.3%、「精度がよい」10.0%となっていた。歯科補綴物の供給国である中国の輸出型大規模歯科技工所は台湾・香港・大陸資本が中心で華南地区に集中していた。ISO などの国際基準を取得することで工程・品質管理を行い、材料は主に日本・欧米系のものを使用し、FDA 認証や CE マークなどの認証を得ていた。

### D. 考察

1 ヶ月間に海外へ歯科補綴物を発注した件数は 10 件未満が 96.0%、また海外への歯科補綴物の発注割合は 5%以下が 91.3%であり、1 日の平均患者数 20~30 人であることを考慮した場合、海外へ発注される歯科補綴物の数はかなり少ないと考えら

れた。少なくとも今回の調査に応じた歯科医院の 7.4%が取引している歯科技工所の大部分は海外への歯科補綴物発注のルートをもっていると示唆された。海外に発注されている歯科補綴物の種類はノンクラスプ義歯が 78%と最も多く、これは平成 20 年 4 月までは日本で薬事認可がなされておらず、また器材もなかったため、必然的に海外への発注になったものと推察された。事実、ノンクラスプ義歯の材料が薬事認可された平成 20 年以降に海外に発注したのが 6.7%と、他の年度に比べて少なかったことから日本における歯科補綴物の海外委託は主にノンクラスプ義歯が主流であったといえる。平成 18 年以前からの発注者が 69.3%と大半を占め、年々新規の発注者が減少していたことや、海外に補綴物を発注する予定について、条件が合えば発注、あるいは予定しているとの回答が合わせて 5%弱であったことから、今後、海外からの技工物の流入量が加速されるとは考えられないようである。

海外インタビュー調査からは、歯科補綴物の海外委託が世界的に拡大した背景には絶対的な需要と国際的な評価によるものと推察された。中国の輸出型大規模歯科技工所は ISO などの国際基準の取得だけでなく FDA, ADA (対北米), CE マーキング, TÜV (対 EU) など各市場の品質基準を取得し、安全管理が徹底されているようである。一方、日本の歯科技工の日本の歯科医師からの評価は、歯科補綴物の対面納入、納期の厳守、緊密なコミュニケーション、きめ細かい要求への対応などが依然として高いことから、今後、歯科補綴物の海外委託による国内歯科技工市場の席卷は考えにくい。しかし、歯科補綴物の海外委託需要は存在することから、欧米諸国の事例を参考に、既存の歯科補綴物の供給体制との併存のあり方を模索する必要がある

ものと思われた。

#### E. 結論

全国歯科医師のアンケート調査により、海外に補綴物製作を発注する割合は7.4%と低く、その発注先は中国で、ノンクラスプ義歯が多かった。中国の輸出型大規模歯科技工所ではISOを取得して工程管理を行い、歯科補綴物の材料には欧米の各認証を得たものを使用していた。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

#### 1. 論文発表

なし

#### 2. 学会発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし

# 「歯科補綴物の多国間流通に関する調査研究」に関する調査

問1. 貴医院が所在している都道府県に○印をつけてください。(○印は1つ)

1. 北海道	2. 青森県	3. 岩手県	4. 秋田県	5. 宮城県	6. 山形県
7. 福島県	8. 茨城県	9. 栃木県	10. 群馬県	11. 千葉県	12. 埼玉県
13. 東京都	14. 神奈川県	15. 山梨県	16. 長野県	17. 新潟県	18. 静岡県
19. 愛知県	20. 三重県	21. 岐阜県	22. 富山県	23. 石川県	24. 福井県
25. 滋賀県	26. 和歌山県	27. 奈良県	28. 京都府	29. 大阪府	30. 兵庫県
31. 岡山県	32. 鳥取県	33. 広島県	34. 島根県	35. 山口県	36. 徳島県
37. 香川県	38. 愛媛県	39. 高知県	40. 福岡県	41. 佐賀県	42. 長崎県
43. 大分県	44. 熊本県	45. 宮崎県	46. 鹿児島県	47. 沖縄県	

問2. 貴医院の標榜科名のうち、該当するもの全てに○印をつけてください。

1. 歯科	2. 小児歯科	3. 矯正歯科	4. 歯科口腔外科	5. その他
-------	---------	---------	-----------	--------

問3. 貴医院の開業年数をご記入ください。

\_\_\_\_\_年

問4. 貴医院の院長先生の年齢をご記入ください。

\_\_\_\_\_歳

問5. 貴医院に勤務されている歯科医師（常勤・非常勤）、常勤の歯科衛生士及び歯科技工士の人数について該当する項目にそれぞれ1つずつ○印をつけてください。

《常勤の歯科医師数（ご自身も含めて）》

1. 一人	2. 二人	3. 三人以上
-------	-------	---------

《非常勤の歯科医師数》

1. いない	2. 一人	3. 二人	4. 三人以上
--------	-------	-------	---------

《歯科衛生士数》

1. いない	2. 一人	3. 二人	4. 三人以上
--------	-------	-------	---------

《歯科技工士数》

1. いない	2. 一人	3. 二人	4. 三人以上
--------	-------	-------	---------

問6. 平日1日あたりの平均来院患者数はどのくらいですか。

\_\_\_\_\_人



問7. 歯科補綴物の発注件数割合はどれくらいですか（○印は1つ）

1. 50%以下      2. 51%～99%      3. 100%      4. わからない

問8. 歯科補綴物の発注件数は今までと比べて変化はありましたか（○印は1つ）

1. 増加した      2. 変化はない      3. 減少した      4. わからない

問9. どのような補綴物を自院外の歯科技工所に発注（外注）されていますか（○印はいくつでも）

1. 金属クラウン・ブリッジ（硬質レジン前装冠，インレーを含む）  
2. 陶材焼付クラウン・ブリッジ  
3. オールセラミッククラウン・ブリッジ（ラミネート，インレー，コーピングのみも含む）  
4. レジン床義歯      5. 金属床義歯（フレームのみも含む）  
6. ノンクラスプ義歯      7. 弾性裏装床義歯（シリコンなど）  
8. インプラントクラウンブリッジ（陶材焼付クラウン・ブリッジ，オールセラミッククラウン・ブリッジ，チタン製ボーンアンカータイプも含む）  
9. インプラントオーバーデンチャー      10. バイトプレート（マウスガード）  
11. 矯正装置（小児系も含む）      12. その他（      ）

問10. 近年の海外技工物の動向についてご存じですか（○印は1つ）

1. 知っている      2. 知らない

問11. これまでに海外に歯科補綴物を発注したことがありますか（○印は1つ）

1. ある → 問12へ  
2. ない → 補問1のみ回答で終了  
3. 知らない（把握していない） → 補問1のみ回答で終了

補問1. 海外に補綴物を発注する予定はありますか（○印は1つ）

1. 予定している      2. 条件が合えば発注したい  
3. 発注する予定はない      4. 不明である

【これで質問は終了です。ご協力ありがとうございました。】

問12. いつ頃から海外に発注していますか（○印は1つ）

1. 平成20年から  
2. 平成19年から  
3. 平成18年より前から（平成      年から）

問13. どの国へ発注していますか（○印はいくつでも）

1. 中国      2. 韓国      3. その他のアジア諸国  
4. アメリカ      5. EU諸国      6. 発注国を把握していない  
7. その他（      ）

問 14. どのような方法で海外へ発注していますか (○印はいくつでも)

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 歯科医師自身が海外へ発注 (宅配便またはインターネットを介して) |
| 2. 取引先の歯科技工所から海外へ発注                 |
| 3. 歯科医師が依頼した輸入代行業者から海外へ発注           |
| 4. その他 ( )                          |

問 15. 海外で製作した補綴物を発注するきっかけは何ですか。(○印はいくつでも)

- |                 |                |               |
|-----------------|----------------|---------------|
| 1. 自ら業者・技工所を探した | 2. ホームページで見つけた | 3. チラシが届いた    |
| 4. 業者の営業の訪問     | 5. 患者さんからの要望   | 6. E-mailが届いた |
| 7. 新聞記事で知った     | 8. テレビ報道で知った   | 9. 雑誌で知った     |
| 10. 歯科業界誌で知った   | 11. 患者さんの問合せ   |               |
| 12. その他 ( )     |                |               |

問 16. 1か月間におおよそどのくらいの補綴物を海外に発注していますか (○印は1つ)

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1. 50件以上/月  | 2. 20~49件/月 |
| 3. 10~19件/月 | 4. 10件未満/月  |

問 17. 海外に補綴物を発注する割合は、全体の補綴物のおおよそ何パーセントですか (○印は1つ)

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1. 30%以上    | 2. 10%~30%未満 |
| 3. 5%~10%未満 | 4. 5%未満      |

問 18. どのような歯科補綴物を海外に発注されていますか (○印はいくつでも)

- |   |                      |
|---|----------------------|
| 1. 金属クラウン・ブリッジ (硬質レジン前装冠, インレーを含む)                                      |                      |
| 2. 陶材焼付クラウン・ブリッジ  |                      |
| 3. オールセラミッククラウン・ブリッジ (ラミネート, インレー, コーピングのみも含む)                          |                      |
| 4. レジン床義歯   | 5. 金属床義歯 (フレームのみも含む) |
| 6. ノンクラスプ義歯   | 7. 弾性裏装床義歯 (シリコンなど)  |
| 8. インプラントクラウンブリッジ (陶材焼付クラウン・ブリッジ, オールセラミッククラウン・ブリッジ, チタン製ボーンアンカータイプも含む) |                      |
| 9. インプラントオーバーデンチャー  | 10. バイトプレート (マウスガード) |
| 11. 矯正装置 (小児系も含む)   | 12. その他 ( )          |

問 19. 歯科補綴物を発注するにあたり、何か指示を出していますか (○印は1つ)

- |                                    |
|------------------------------------|
| 1. 海外へ発注することを指示している                |
| 2. 取引先の歯科技工所に任せてある                 |
| 3. 歯科技工所ではない仲介人 (輸入代行業者など) に依頼している |
| 4. その他 ( )                         |



問 23. 海外で製作した補綴物について、患者さんに対して説明していますか（○印は1つ）

1. 説明している      2. 説明していない

問 24. 海外で製作した補綴物について満足していますか（○印は1つ）

1. 満足                  2. 普通                  3. 不満

問 25. 今後も補綴物を海外に発注しますか（○印は1つ）

1. 発注する              2. 発注しない          3. 不明である

問 26. 海外で発注した補綴物（発注から装着まで）について、特に注意している点がありましたら具体的な内容をご記入下さい

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
---

お忙しいところご協力いただきましてありがとうございました。

なお、本調査によって得られた情報は統計的処理を行いその結果を公表しますが、医療機関名等の個人が特定される情報が公表されることはありません。

今回の調査は、法的拘束力はありませんので、忌憚のないご意見をご記載下さい。

II. 厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
（分担）研究報告書

1. 日本歯科医師会会員対象のアンケート調査研究

分担研究者 佐藤博信 福岡歯科大学教授

分担研究者 末瀬一彦 大阪歯科大学歯科技工士専門学校教授

1. 結果の概要

今回の調査に全体に関連する事項が質問 1～7 に記載されている。これらの内容を要約すると、平均の回収率も高く（65.8%）、さらに各県別のばらつきも比較的少ない（89.7%～39.1%）ことから、全国的な傾向をみるのに、適正かつ有効なデータであろうと考えられた。質問 3, 4, 5 の開業年数、経験年数、常勤医師数から見ても 40～50 代の 1 名で開業をしている、きわめて一般的な開業歯科医院が中心となった回答であることから、我が国の平均的な歯科医院の回答が得られているものと推察された。

一般的な歯科技工の傾向についての質問 5, 7, 8 が示しているように、多くの診療所が歯科技工の多くを外注しているのが現状で、常勤の歯科技工士 1 名以下がほとんどであり、最近の歯科技工の外注傾向が高い時勢を的確に反映している。

しかしながら、質問 9 の外注している種類の回答をみると、意外な実情が見えてくる。まず、第一番目に 2008 年 5 月に厚生労働省から認可されたノンクラスプ義歯（バルプラスト社のものが主と思われる）が 847 施設（41.9%）と多くの施設で使用されている点である。おそらく、これらの多くは認可が下りるまでは海外（特に中国等）に発注されたものと考えられる。

また、オールセラミッククラウンも 1,161 施設（57.4%）で使用されていることも予想外に多い外注結果であった。我が国のオールセラミッククラウンの使用量は医療統計の推測値からすると日本では欧米に比べて、かなり少ないといわれている（陶材焼付鑄造冠に比べ我が国では 10 分の 1 にも満たない量といわれている）が、1,161 施設（57.4%）で外注がなされている。このトップシェアはスウェーデンの N 社で、2007 年 9 月に千葉県幕張に工場ができるまでは、すべてスウェーデンからの輸入製品であった。2009 年 3 月の現状でも 100%の国産化率までは至ってはいないものの、海外輸入は激減しているものと推定できる。

2. 結果の詳細

【属 性】

1. 歯科医師の居住している都道府県

全体の回収率が 65.8%と高いが、50%を下回っているのが都道府県別では、「青森県」「鳥取県」「徳島県」「香川県」の 4 県のみであることから、全国の実態を表

していると言える。また、図 1 に示した都道府県ごとの回答者の分布と歯科医師数の分布はほぼ一致している。

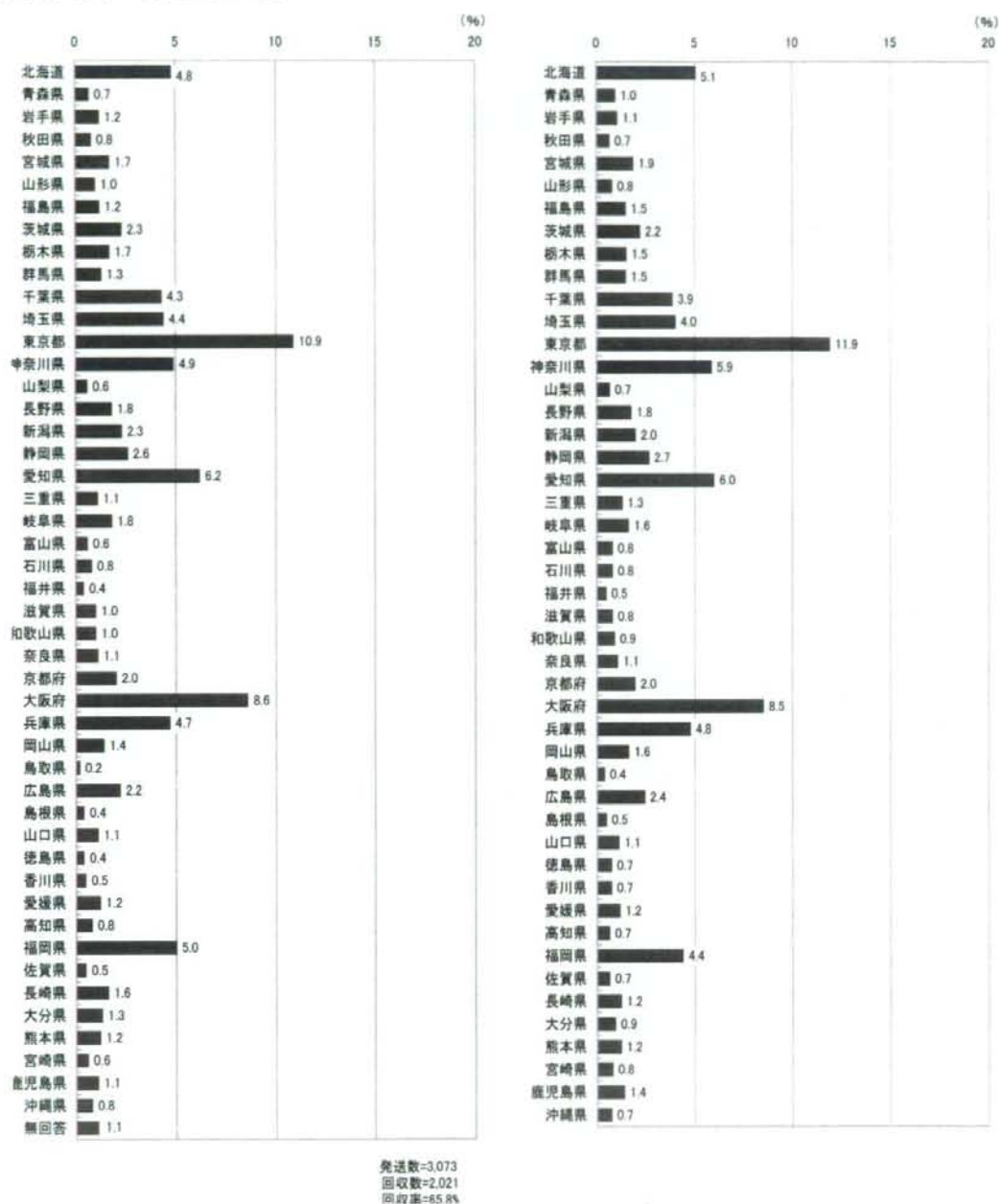


図 1 都道府県別の回答者分布（左）と歯科医師数の分布（右）

## 2. 医院の標榜科名

全体で見ると、「歯科」が 98.0%と圧倒的に高く、「小児歯科」51.3%、「矯正歯科」25.2%、「歯科口腔外科」19.6%となっている（図 2）。

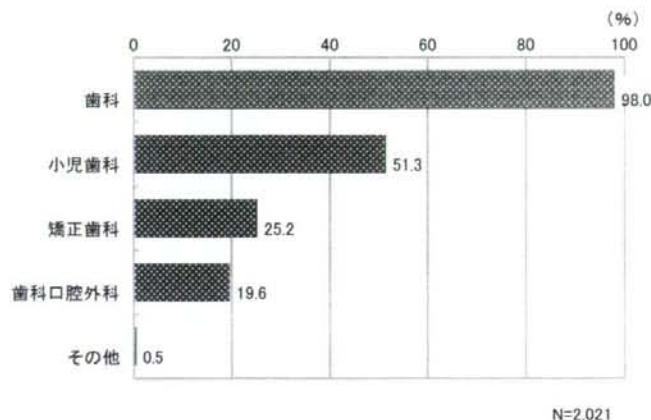


図2 医院の標榜科名（複数回答）

### 3. 医院の開業年数

図3は開業年数別の患者数，常勤歯科医師数，技工士の有無を示している。全体で見ると，「～30年未満」が34.2%，「～20年未満」が26.7%，「30年以上」が22.2%，「～10年未満」が16.3%となっている。

これを来院患者数別にみると『～10人未満』では，「30年以上」が34.3%，「～30年未満」が30.0%，「～20年未満」が22.9%，「～10年未満」が11.4%になる。

『～20人未満』では，「～30年未満」が36.1%，「30年以上」が30.9%，「～20年未満」が21.0%，「～10年未満」が12.0%，

『～30人未満』では，「～30年未満」が34.6%，「～20年未満」が26.0%，「30年以上」が21.7%，「～10年未満」が17.2%である。

『～50人未満』では，「～30年未満」が33.4%，「～20年未満」が31.2%，「～10年未満」が20.4%，「30年以上」が14.8%，

『50人以上』では，「～20年未満」が34.7%，「～30年未満」が32.4%，「30年以上」が18.5%，「～10年未満」が14.5%となっており，開業年数が長い歯科医院ほど来院患者数が少ない傾向，逆に，開業年数が短いほど来院患者数が多い傾向が伺える。

次に，歯科技工士についてみると，開業年数が長い歯科医院ほど歯科技工士がいる場合が多い傾向である。

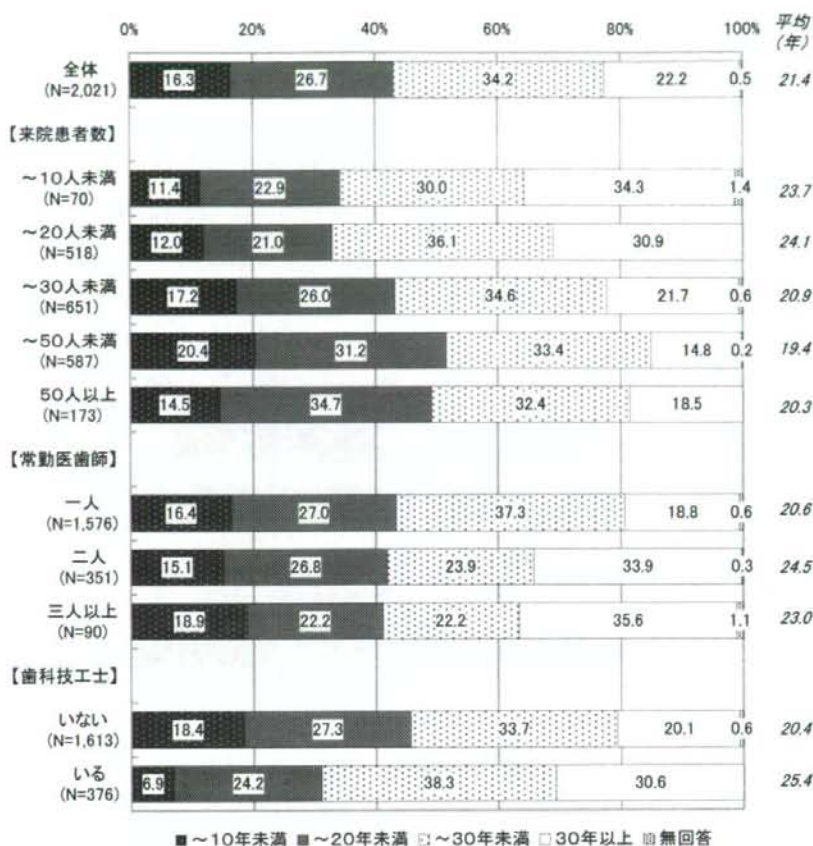


図3 医院の開業年数

#### 4. 院長の年齢

院長の年齢は平均 52.6 歳で、「~60 歳未満」が 40.4%、「~50 歳未満」が 28.8%、「~70 歳未満」が 20.0%、「~40 歳未満」が 7.8%、「70 歳以上」が 2.5%となっている（図4）。

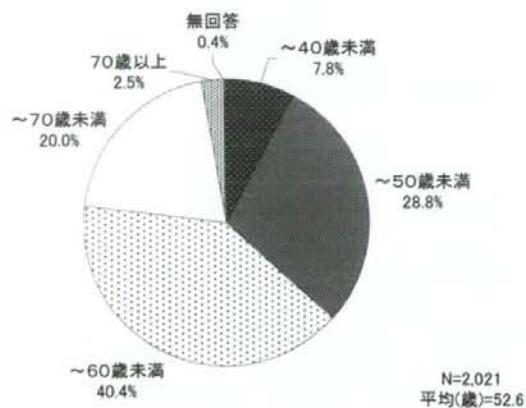


図4 院長の年齢



## 5. 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士の数

常勤の歯科医師数は「1人」が圧倒的に多く78.0%，次いで、「2人」が17.4%，「3人以上」が4.5%となっている。一方、非常勤の歯科医師は「いない」が72.0%で、「1人」が15.5%となっており、殆どが院長のみである。

歯科衛生士では、「いない」が30.8%，「1人」が29.0%，と拮抗しており、「3人以上」が20.8%，「2人」が19.1%となっており、「いない・1人」と「2人・3人以上」に区分されている。

歯科技工士は「いない」が79.8%である。

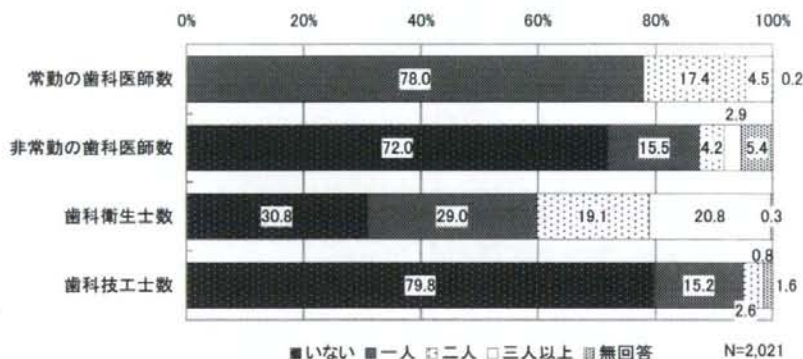


図5 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士の数

## 6. 平日1日当たりの平均来院患者数

1日平均の来院患者数は平均27.2人で、「～30人未満」が32.2%，「～50人未満」が29.0%，「～20人未満」が25.6%，「～50人以上」が8.6%，「～10人未満」が3.5%である。

また、歯科技工士が「いる」場合は平均で36.7人、「いない」場合は25.0人と、歯科技工士のいる歯科診療所では1日の患者数も多くなっている。

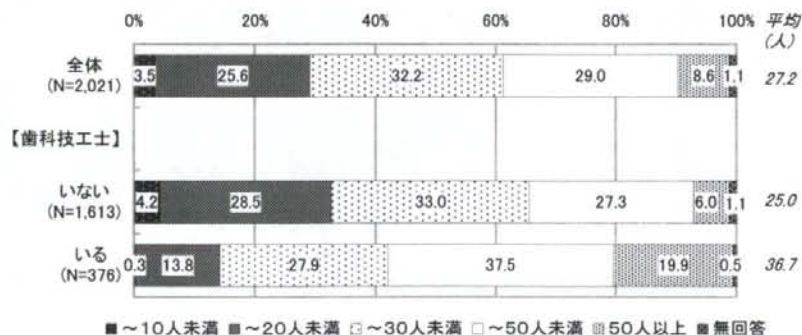


図6 平日1日当たりの平均来院患者数

## 7. 歯科補綴物の発注件数割合

補綴物の発注件数割合を全体でみると、「100%」が44.0%と最も多く、次いで「51～99%」30.7%、「50%以下」が20.2%となっている。

これを常勤歯科医師数別に傾向をみると、1人では、発注率「100%」が46.8%であるが、2人（35.9%）、3人（27.8%）と数が増えるにしたがって低率化している。

また、歯科技工士がいても、20%強の歯科診療所では「50%以上」の発注を行っているようである。

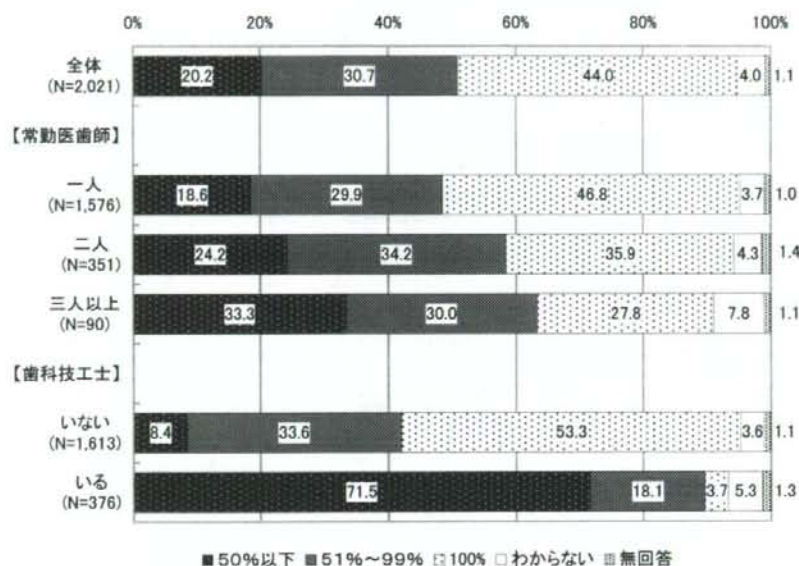


図7 歯科補綴物の発注件数割合

## 8. 補綴物の発注件数の増減

図8に、来院患者数別、常勤歯科医師数、歯科技工士の有無別に補綴物の発注件数の増減を示す。補綴物の発注件数の増減は全体で「減少」が53.2%、「変化なし」が36.4%、「増加」が4.1%となっており、いつからの傾向か不明であるが、減少傾向が目立つ。また、来院患者数の規模でみると、「～10人未満」は「減少」が68.6%に対して、「増加」は全く無い。「～50人以上」では「減少」が28.9%と低く、逆にこの規模では「増加」が4.6%となっている。

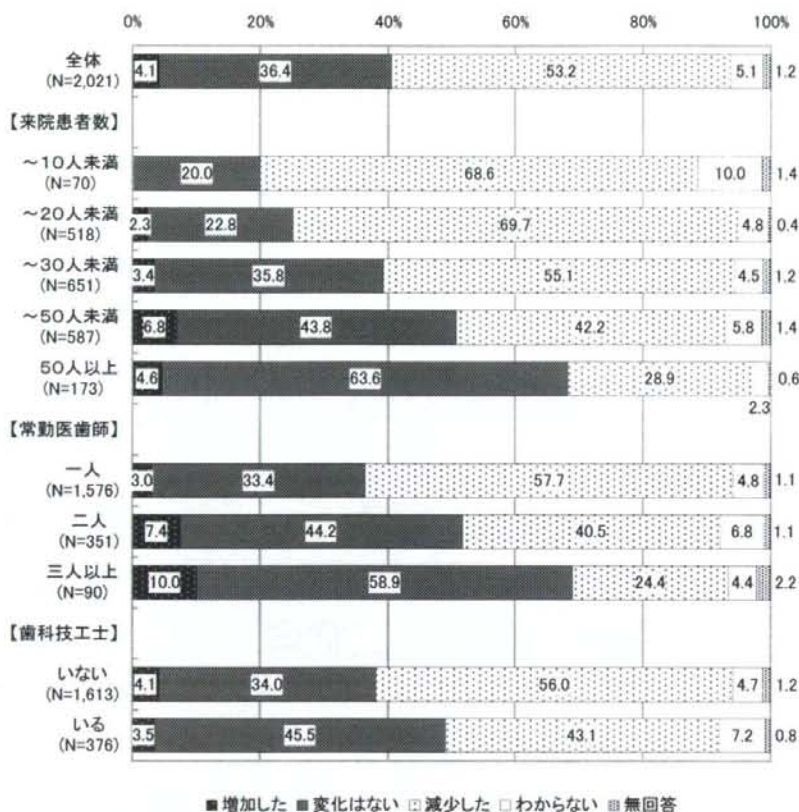


図8 補綴物の発注件数の増減

図9は補綴物の発注件数の増減を歯科補綴物の海外発注経験の有無で2群に分けて比較したものである。歯科補綴物の発注件数の増減を全体で見ると、「減少した」が53.2%、「変化はない」が36.4%、「増加した」が4.1%、「分からない」5.1%となっており、減少傾向が見られる。これを「海外に発注した経験がある」についてみると、「減少した」が54.7%、「変化はない」が33.3%、「増加した」が7.3%、一方、「海外に発注した経験がない（国内の外注のみ）」についてみると、「減少した」が53.1%、「変化はない」が36.6%、「増加した」が3.8%となっており、経験の有無についての傾向の差異はほとんどみられない。

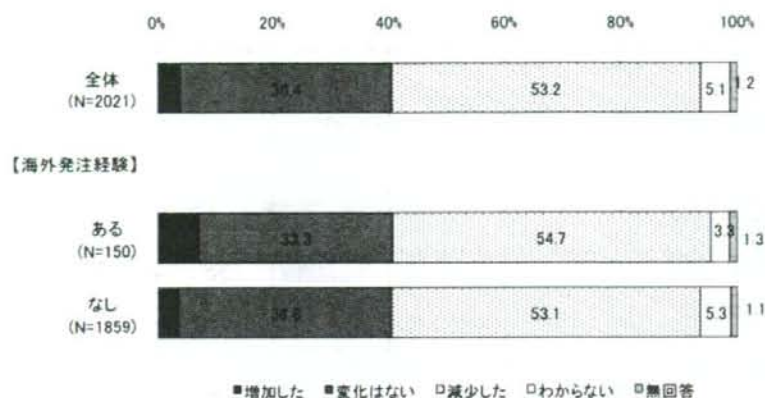


図9 歯科補綴物の海外発注経験の有無別にみた補綴物の発注件数の増減

### 9. 発注している補綴物の種類

発注している補綴物の種類の割合を、歯科医師の年齢別、来院患者数別、常勤歯科医師数、歯科技工士の有無別に、図10に示す。発注している補綴物の種類を全体で見ると、「陶材焼付クラウン・ブリッジ」が88.8%と最も高率であり、次いで、「レジン床義歯」の86.8%、「金属クラウン・ブリッジ」84.3%、「金属床義歯」80.4%、が8割以上であり、「オールセラミッククラウン・ブリッジ」57.4%、「ノンクラスプ義歯」41.9%などが主なものである。